

さいたま市長年頭記者会見

平成26年1月7日（火曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長年頭記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の埼玉新聞社さん、進行をよろしく願い
いたします。
- 埼玉新聞 1月の幹事社を務めます埼玉新聞社と申します。明けましておめでとう
ございます。本年もよろしく申し上げます。
それでは、早速ですが、市長からの年頭挨拶をお願いします。

市長年頭あいさつ

- 市 長 明けましておめでとうございます。
旧年中は、市政各般にわたりご理解、ご協力をいただきまことにありが
とうございました。
今年は、午の年になります。今年の漢字として、躍動の「躍」という字
を上げさせていただきたいと思います。天馬のように飛躍するよい年にし
てまいりたいと思いますので、今年もどうぞよろしく願いいたします。
さて、昨年を振り返りますと、安倍首相によりますアベノミクス効果に
より、昨年12月の月例経済報告で4年2カ月ぶりにデフレの表現が削除
され、景気は着実に改善の方向へと動いていると評価されました。
しかし、市民生活での実感としてはいま一つでもあり、今年4月の消費
増税など、国民負担の増加が経済にどのような影響をもたらすのか不透明
なところもございますが、現在の明るい兆しがさらに大きくなっていけば
と思っております。
また、11月7日に若田光一さんの搭乗しましたソユーズが無事打ち上
げられ、現在宇宙からさまざまなメッセージ等が送られてきております。
今回が4回目の宇宙となり、この6カ月間の長期滞在の中で日本人初のコ
マンダーに就任することとなっており、ますますの活躍が期待される所
ろでございます。
さらに、2020年の夏季オリンピック・パラリンピックの開催地が東

京に決定し、また富士山が世界文化遺産となったことは、国民の心に大きな輝きを与えてくれたと思っております。

一方で、伊豆大島での土石流災害、フィリピンへの猛烈な台風の直撃、あるいはロシアへの隕石の落下など、自然の大いなる力に驚かされ、先の東日本大震災に引き続き、危機管理の重要性を痛感した一年でもありました。

また、浦和うなぎまつりにちなんだPRソングやキャラクターを作成いただき、本市文化の振興発展に寄与された功績によりまして本市の文化賞を受賞されております、やなせたかしさんが10月に逝去されたことは、大きな悲しみの一つでもございました。アンパンマンや、本市の浦和駅前にあります、うなこちゃんなどを通じまして、子供たちだけでなく多くの方々に夢と希望を与えてくれた方でした。

さいたま市におきましては、昨年10月、さいたまクリテリウムbyワールドフランスが大観衆を迎えて開催できたこと、また2017年の世界盆栽大会の開催の決定は、大きな喜びでありました。

さらに、浦和学院高校によります埼玉県勢として1968年の大宮工業以来、45年ぶりの選抜初優勝、市立浦和高校サッカー部の5年ぶり14度目の全国選手権出場、県立浦和高校ラグビー部の54年ぶりの全国大会出場など、多くの若者たちの懸命な努力が大輪の花を咲かせてくれました。

まちづくりでは、南区の拠点となります複合施設サウスピアのオープン、4月には大宮駅西口に本市初の乳幼児の子育て支援を中心としました複合施設「のびのびプラザ大宮」が開設されました。

さらには、大宮駅東口大門町2丁目中地区の市街地再開発事業の事業協力者が決定したほか、浦和駅の鉄道高架化事業が完成し、湘南新宿ラインの停車により都心へのアクセスが飛躍的に向上するとともに、東西連絡通路の完成によりまして駅周辺の一体感が醸成をされてまいりました。

こうした中、人口125万人を擁するさいたま市は、これからの人口減少に備え、市民の幸せを実現する「住みたい都市」、市民や企業から「選ばれる都市」を目指していかなければならないと考えております。

昨年の市民意識調査によりますと、さいたま市の市民の皆様の8割を超える方が、さいたま市は「住みやすい」、また「住み続けたい」と考えてお

りますが、これをさらに伸ばしていくため、しあわせ実感都市の実現に向けました「しあわせ倍増プラン2013」を重点プロジェクトに位置づけ、全力で取り組んでまいります。

このプランでは、子供にかかわるさまざまな課題や相談に対応するための（仮称）さいたま市子ども総合センターの整備、待機児童ゼロに向けた認可保育所の増設や定員増、保育コンシェルジュの全区配置による保育相談窓口の強化といった子供と親の幸せ倍増への取り組み、若者自立支援ルームの設置や子ども・若者支援ネットワークの構築、就業支援を実施する地域若者サポートステーションの設置など、若者への支援、若者の幸せ倍増に取り組んでまいります。

また、「高齢者の幸せ倍増」として、高齢者見守りネットワークの構築や24時間訪問介護サービスの推進など、高齢者が安全安心に暮らせるまちづくりを進めていくとともに、公認グラウンド・ゴルフ場の整備やアクティビチケット、シルバーポイントの各事業の拡充により、元気な高齢者の支援を積極的に行ってまいります。

さらに、「障害者の幸せ倍増」として、障害者就労施設等の受注機会の拡大や工賃の向上に向けた取り組み、移動困難な障害者のための外出支援、ブラインドサッカーなどのユニバーサルスポーツの推進など、障害を持った方も安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

教育に係る取り組みとしましては、土曜チャレンジスクールの拡充はもとより、平成24年度には2万2,000人を超える方々がボランティアとして参加していただいたスクールサポートネットワークのもと、学校・家庭・地域の連携による教育を推進するとともに、新たな中高一貫校の設置に向けた取り組みを進め、日本一の教育都市を目指してまいります。

また、文化芸術都市の創造に向けた国際芸術祭（仮称）さいたまトリエンナーレの開催や盆栽文化の振興など、文化芸術の発展に取り組んでまいります。

さらに、老朽化の著しい社会保険大宮総合病院の移転存続に向けて、年金・健康保険福祉施設整理機構とプラザノース北側市有地との交換、新病院建設に向けた協議を進めていくとともに、市立病院の施設整備や救命救急センターの設置、全区へのウォーキングコース、ジョギングコースの設

定、スマートウェルネスシティ構想などといった健康・医療・福祉への取り組みを進めてまいります。

また、学校での体育活動時における事故対応テキスト～ASUKAモデルによって、市立小中高・特別支援学校の教職員はもとより児童生徒への心肺蘇生法の実習、緑消防署や片柳出張所などの建設、あるいはゾーン30の整備、通学路の安全対策など、安心安全なまちづくりに取り組んでまいります。

環境への取り組みとしては、市民や事業者の皆様とともに、20キロメートル以上の桜回廊の整備を目指して進めております、「目指せ日本一！サクラサク見沼たんぼプロジェクト」や、岩槻区川通地区に設置をしました施設を初めとするメガソーラーの推進、平成26年度に完成予定の新クリーンセンターでのごみ発電などの取り組みを進めてまいります。

また、大宮駅東口大門町2丁目中地区の再開発事業や、大宮駅西口の区画整理事業、また浦和駅西口高砂南地区の再開発など、まちづくりにつきましても積極的に支援し、東日本のハブシティにふさわしい顔づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

また、医療ものづくり都市構想や、スポーツ観光・産業都市戦略、環境技術産業の推進など、さいたま市の強みを生かした7つのプロジェクトから成る成長戦略を着実に実施し、企業にとっても魅力ある選ばれる都市の実現に全力を挙げてまいります。

さらに、これらを下支えする「行財政改革推進プラン2013」を実行し、市民満足度の高い高品質経営市役所への転換を図ってまいります。

以上、簡単ではありますが、平成26年の年頭に当たりまして私の考え方を申し上げましたが、さいたま市が「住みたい都市」、「選ばれる都市」に、そして希望ときずなにあふれる躍動するまちへと、全力で取り組んでまいりたいと考えています。

皆様には、なお一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

○ 埼玉新聞

ありがとうございました。市長の年頭の抱負について何か質問のある社、ございますでしょうか。

幹事社質問：

- ① さいたまクリテリウムについて
 - ・ 補正予算廃案への対応について
 - ・ 継続開催に向けての財政・運営面での課題
- ② 保育所不足問題
 - ・ 最新の待機児童数と保育コンシェルジュの成果
 - ・ 待機児童解消への今後の展望
- ③ 庁舎の耐震改修
 - ・ 南側駐車場の執務室の増設と駐車場利用制限について
 - ・ 庁舎審議会との整合性について

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。3点まとめて質問いたします。

まず1点目、さいたまクリテリウムについてなのですが、補助金の補正予算が昨年12月議会で廃案となりましたが、その後の対応と、市長が目指されている今年の継続開催に向けて、財政運営面の改善について進んでいるところがあったらお聞かせください。

2点目が保育所不足問題で、昨年4月では、たしか100人程度の待機児童が発生していましたが、最新の待機児童数と、昨年末に設置されました保育コンシェルジュの成果についてお聞かせください。また、待機児童解消への今後の展望についてお聞かせください。

3点目が庁舎の耐震改修で、耐震改修によって手狭となる執務室を南側駐車場に増設することで、駐車場の利用が制限されるということを伺っていますけれども、これについていつからどの程度制限されるのか、また議会からも質問があったんですけども、そういうやり方で大丈夫なのかということとですね、今行われている新庁舎審議との整合性について、仮に移転新築となった場合こうした整備が無駄になる可能性も指摘されていますけれども、その整合性についてお聞かせください。

○ 市長 それでは、幹事社からの質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、1点目のさいたまクリテリウムについて、補正予算廃案への対応

ということについてお答えをしたいと思います。

まず、12月議会におきまして、補正予算案の審議未了により廃案という結果になったことを重く受けとめ、実行委員会の会長として、また市長として責任を感じております。

また、運営体制や事業費の管理などの面で多くの課題を残してしまったことは十分認識をしており、結果的に市民の皆様へ負担をかけてしまうことに対して深く反省をいたしております。不足している事業費につきましては、市議会本会議や予算委員会での意見などを踏まえまして、内容をさらに精査の上、全ての可能性について検討していきたいと考えており、いづれにいたしましても市議会や市民の皆様にご理解をいただけるよう丁寧な説明に努めてまいりたいと考えております。

次に、継続開催へ向けて、財政運営面の改善についてでございます。まず、運営面についてであります。今回市内外からたくさんの皆さんにお越しいただき、感動的な大変すばらしいレースを見ることができたものの、世界初の国際的なレースを短期間で進めていくための組織としては、十分な体制ではなかったと実感をいたしております。

そこで、運営体制につきましては拡充・強化が必要であると考えており、庁内におきましても情報共有や迅速な対応が図れるような体制づくりをしていきたいと考えております。

また、年間を通じた多彩な事業展開や経営の自立化、効率化などのメリットも期待できるような運営体制も視野に入れながら、検討をしてみたいと考えております。

一方、財政面についてであります。効果的なプロモーションを通じて新たなスポンサーを開拓していくとともに、今回のスポンサーに引き続きご協力いただけるような仕組みづくりなどによって財源確保に努め、市の負担を軽減できるようにしてまいりたいと考えております。

また、オフィシャルサポーターズの募集やオフィシャルグッズの販売につきましても一層のPRとともに、早目に展開をしていくことが必要であるとと考えております。

今回の大会の経済波及効果については約30億円と試算をされておりますが、地域経済への効果という面ではさらなる地元企業の活用や、商店会

との連携などが必要であったと考えており、事業経費に対して地域振興や地元への経済効果が、より一層高まるように工夫をしていきたいと考えております。

結果的には、多くの課題が残る大会となってしまいましたが、その一方でツールドフランスが与えたインパクトは大変大きなものがあったと考えております。さいたま新都心を埋め尽くす大観衆が詰めかけ、国内外へのテレビ放送を初め、新聞、雑誌、ウェブサイト、ラジオなど、多くのメディアに取り上げられるなど、「スポーツのまちさいたま市」を国内外に広くアピールすることができ、大変意義のある大会になったと考えております。この大会を市民の皆様が誇りと思えるような、また本市を代表するシンボリックな大会とするためにも、単なる一過性のものとして終わらせるのではなく、継続的な開催がぜひとも必要であると考えております。

今回の課題や反省点を十分踏まえながら、組織運営体制の拡充やさまざまな財源の確保に努めるなど、継続開催に向けた諸準備に早急に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、幹事社問題の質問の2つ目でございます保育所不足の問題についてでございます。まず最初は、最新の待機児童数と保育コンシェルジュの成果についてでございます。

保育所の待機児童数につきましては、毎年4月及び10月時点で集計を行っております。最新の待機児童数は、平成25年10月現在で364人と、昨年10月現在の待機児童数277人と比較をしまして、87人増加をいたしております。

増加した主な理由といたしましては、平成24年度の4月から10月までの入所申込者数は1,026人、本年度は1,281人となっております。255人申込者が増えたことによると考えております。

さらに、新設保育所の開所時期を4月入所に合わせていることから、4月以降に新たに申し込みをされる方は受け入れ枠が少ないために、4月当初の待機児童117名と比較をしますと、増えている状況にあると考えております。

また、保育コンシェルジュにつきましては、11月の21日から11月

末までの研修期間を経まして、12月2日に全10区の支援課に配属をさせていただいたところでございます。

この時期は、4月入所を申し込まれている方の1次選考期間中であり、問い合わせが殺到するような時期ではないことから、問い合わせを受けながらスキルアップをしていただいているところでございます。市民の方からは、保育コンシェルジュについて丁寧な対応をしていただいたなどの声が寄せられているところであります。

この後、2月初めに1次選考結果を送付することとなりますが、申し込み結果が不承諾となられた方々に対し現況調査を行いながら、保育所等の預け先についてきめ細やかな対応を行うことで、一人でも多くのお子さんが保育所に入所できるように対応していきたいと考えております。

続きまして、待機児童解消への今後の展望についてでございます。9月の議会におきましてもお答えしておりますが、平成29年4月までに待機児童解消を目指すこととしており、その具体的な指標として、「しあわせ倍増プラン2013」の中で、平成28年度までに認可保育所の整備によりまして、3,600人の定員増について掲げさせていただいているものであります。

今後につきましても、ナーサリールームや家庭保育室、また幼稚園の預かり保育の一層の充実を図るとともに、国が示します「待機児童解消加速化プラン」の事業にも積極的に取り組んでいくことによりまして、保育を希望される方の受け皿を拡大してまいりたいと考えております。

続きまして、3つ目の質問でございます庁舎の耐震改修についてでございます。南側駐車場への執務室増設と駐車場利用制限についてのご質問にお答えをいたします。本庁舎の耐震補強工事及びアスベスト除去工事を安全かつ効率的に実施をしていくため、工事範囲となります事務室の引っ越し先として（仮称）仮配置棟の建設工事を予定いたしております。

仮配置棟の建設場所としては、設計会社より本庁舎本館との人の動線等を考慮し、本庁舎南側駐車場を提案されております。また、仮配置棟の建設に当たりましては、南側駐車場77台分が利用できなくなるため、市民等来庁者の利用に極力影響しないよう、公用車を他の市有地に移動させ一

般駐車場に振りかえるなど、工夫する必要があると考えております。

さらに、工事期間中及び竣工後の長期間にわたりまして、駐車場の使用につきましても制限を設けることになるとともに、12月議会におきまして議会側から、市民の利便性や業務上においても不便となることを問題視する意見が出ており、一般駐車場の確保に当たりましては、市民に対して十分な配慮と丁寧な周知を行う必要があると認識をいたしております。

続きまして、新本庁舎審議との整合性についてというご質問でございますが、本庁舎の耐震化につきましては大規模地震が懸念される中、市における震災を想定し、被災時における防災中枢拠点施設としての役割を担う本庁舎の耐震補強工事を早急に行うこととしているものでございます。

また、今回建設をいたします仮配置棟につきましては、整備費を抑制する観点から軽量鉄骨造による建設を予定しており、一般的には40年間使用できると見込んでおります。耐震事業後は、不足している会議室や本庁舎以外の民間ビル等に配置している事務室の移転先等に利用してまいりたいと考えております。

一方、現在審議が行われております本庁舎整備審議会につきましては、旧3市における合併協定書を踏まえ、さいたま市の本庁舎のあり方について審議が行われており、本庁舎の耐震補強工事とは切り離して検討しているところであります。

私からは以上です。

○ 埼玉新聞 ありがとうございました。

幹事社質問に関連する質問

何点かちょっと伺いたいんですけども、まずさいたまクリテリウムについてなんですが、選択肢としていろいろあると思うんですけども、臨時議会で再提案とか専決とか、どのような選択肢を今考えられているんでしょうか。

○ 市長 今は、どういう形でやるのがいいのかということで、もろもろ時間的な制約もありますので、その中でさまざまな方法についても検討しているというところでございます。

○ 埼玉新聞 あと、来年の継続開催に向けて、県のほうから共催の可能性について申

し出があったんですけれども、それについての感想をお聞かせください。

- 市長 ちょうど埼玉県の上田知事から、昨年12月24日の定例記者会見で、来年も開催し、要請があれば県とさいたま市の共催もあり得るというような表明があったと伺っております。現時点では、今年度開催の課題解決に全力で取り組んでいる状況であります。上田知事からの申し出は大変ありがたい申し出であると感じております。次回開催に向けての準備が行える状況になりましたら、埼玉県がご協力いただけるということについて、さいたま市としても速やかに県と協議をして検討を進めていければというふうに思っております。

- 埼玉新聞 2点目の保育所不足問題でですね、待機児童数364人に対し4年間で3,600人の定員増ということで、若干これ数字が合わないんですけれども、以前から待機児童という概念が非常に狭いので、不承諾数の、去年としての1,800というのを基盤に考えると納得いくんですが、その辺の数字の整合性についてお聞かせください。

- 市長 そうですね、これは毎年、待機児童の定数をかなり増やす形で、認可保育所と認可外も含めて整備をしてきているわけなんですけれども、毎回それを上回るニーズがございます。

そうした中で、私どもとしましては、これまでの状況なども踏まえながら、ちょうど前の4年間で認可保育所、その半分の約1,800ぐらいだったと思いますけれども、認可外も含めると4,000近かったと思いますけれども、いずれにしましても認可保育所をさらに3,600増員する中で、認可保育所に対するニーズが非常に高いというような状況もございますので、増員を図ることで、さらに認可保育所だけではなくてナーサリー、家庭保育室といったさいたま市独自で認証している制度、あるいは幼稚園の預かり保育といったことなどでも対応しながら、あわせて保育コンシェルジュを新たに整備をしましたので、そういったものできめ細やかな対応をしながら、待機児童ゼロを目指していこうということで進めさせていただいております。

なかなか、幾つ不足しているから、じゃイコール幾つという計算式が成り立たないものがございますので、前回も、前の4年間もどちらかというと、目標よりはかなり多目に整備をさせていただいてきたんですけれども、

それでもゼロというところにはならなかった、とにかくゼロを目指そうということで前の4年間も努めてきたつもりですけども。

ですから今回は特に認可保育所のニーズが非常に高いということもあって、そこに重点を置きながら定員を増やし、かつナーサリー、家庭保育室、あるいは幼稚園の預かり保育など、複合的なやり方ですね、待機児童ゼロということを目指していきたいと思っております。

- 埼玉新聞 3点目のですね、庁舎改修の件なんですけれども、おっしゃったようにですね、南側駐車場に配置される仮配置棟も、仮と言いながら数字40年間ですか、耐用年数が長いということで、実際には長く使われる。別館として使うというふうに伺っているんですけれども、繰り返しになりますが、仮に本庁舎が移転になった場合ですね、そうした大きな施設を使うことについてどのような、受け皿としてですね、考えられているかというのを、ちょっと選択肢を用意しておかないと、無駄な建物が残ってしまう可能性が出てきますので、お聞かせください。
- 市長 基本的には、現時点でまだ審議会のほうで審議をしていただいているところでございますので、その方針に沿った形で対応していくということが基本的な考え方でありまして。ただ、先ほども申し上げましたとおり、さいたま市の場合いろんなところに、民間のところを借りて対応しているというような施設もございますので、決して二重投資ということにはならないと思っております。
- 埼玉新聞 わかりました。ありがとうございます。
代表質問の説明に関して質問がある方は質問してください。
- 毎日新聞 毎日新聞です。
さいたまクリテリウムの関係で、あらゆる選択肢をまだ残していらっしゃるということなんですけど、1月臨時議会という選択肢もまだ残っているという、ちょっと時間的にかなり厳しくなっていると思うんですけど。
- 市長 現状として、いろいろな意味で、時間的な制約があると思いますので、その中で検討しているということで、まだそのうちのどの選択肢がなくなったということではなく、その中で検討している最中でございます。
- 毎日新聞 1月臨時会という選択肢も残っているということで……

- 市 長 あらゆる選択肢を考えております。
- 毎日新聞 もし1月臨時議会を開催する場合には、いつごろまでに開催の意向を決定しなければならないというふうに市長ご自身はお考えでしょうか。
- 市 長 そうですね、ちょっと現時点では、逆算してまだ把握するという状況まではいっておりませんが、物理的に当然ある時期までにとということになるでしょうから、そういった時間的な制約も十分踏まえて検討しているところで、基本的には2月に限りなく近づいてきた場合には2月に議会がありますので、臨時会というわけにはいかなくて、やはりその際に、ということになるかもしれませんし、ちょっとそこはまだ何日までという明確なリミットということについては申し上げられませんけれども、ただその辺の時間の加減をやはり意識して、選択をしていかなければいけないと思っています。
- 毎日新聞 あともう一点なんですが、ツールドフランスの来年度開催についてなんですが、本年度ですね、3億5,000万という市の支出金、まだちょっと予算は通っていませんけど、その金額をベースとして次年度、規模考えるということなのか、あるいは先ほど新しいスポンサー集めというような話があったんですが、それよりは縮小したもので考える。ベースとしては、今年度は3億5,000万かかったという考え方でいくのかどうか。
- 市 長 現在精査中でございますので、全体の事業費がどのぐらいかかるかということは、改めて精査をする必要があると思っていますし、またもう一つはやはりその財源を、今回はやはり市からの補助の部分がかなり大きかったので、それについても今後その金額、決算ベースの金額を踏まえながら、どういうふうな財源構成にしていくかということは精査をしていく必要があると考えております。
- 毎日新聞 負担割合については、今年度を基本に考えたいということですかね。
- 市 長 割合等についてもですね、今後、要するに市だけでやるのか、どういうふうにするのかというようないろんな問題もありますし、あとは当然協力していただく企業の状況なども踏まえていかなくちゃいけないというふうに思っておりますので、そういったことも踏まえながら検討していきたいと思っていますけど、先ほども言いましたように、いずれにしろできるだけ今年度の決算ベースでの市費の負担よりも、できるだけ軽減化をして

いきたいとは思っております。

○ 毎日新聞 ありがとうございます。

○日本経済新聞 クリテリウムの来年の開催についてなんですけれども、今ちょっと話もありましたが、県と共催するという場合ですね、どういうところが一番メリットとして考えられているのか、当然あとその中には補助金というか、お金の面でも支援ができるというふうに考えているのかという点をお聞かせ願いたいとの、共催するという場合ですね、いつごろをめどにそういう話、春でも夏でもいいんですけども、どれぐらいの時期にそういう話を検討しようというふうに考えていらっしゃるのか、教えてください。

○ 市 長 1点目はメリットということですか。

○日本経済新聞 はい。

○ 市 長 1点目については、やはり県と市で共同してやるということによって、非常に運営体制、あるいは発信力、いろいろなメリットはたくさんあるのではないかと考えております。

それから、どういう形で協力を仰ぐかということについては、現在その辺については検討を進めておりますので、また相手のご意向もあるかと思っておりますので、県のほうと協議をしながら決定をさせていただくということになるんだろうと思います、もし継続ということになればですね。

○日本経済新聞 時期的には。

○ 市 長 時期的には、そうですね、これはちょっといつということは、相手がいることでもあるので現時点では申し上げられません。

○日本経済新聞 まだ具体的な話は全く。

○ 市 長 そうですね。ただ、やはり予算編成などの問題もあると思いますので、いつ決定するかはともかくとして、できるだけ早く、県とはご相談をさせていただければというふうには思っております。

○日本経済新聞 ありがとうございます。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

クリテリウムについてなんですけども、共同主催のですね、ASOのほうは12月に多分来たと思われるんですが、市長もこの前市長会見で来るということ saying it in the meeting but, so what kind of talk was there. Also, at that time, did you already have a tentative agreement?

聞かせください。

- 市長 まず、ASOとの意見交換につきましては、昨年12月11日から12日にかけてお見えになりましたので、さいたま市と意見交換する場を持たせていただきました。12日に私も幹部の方とお話をしましたけれども、1つは、今回第1回目の大会についての課題とか、それぞれの印象であるとか、あるいは反省点であるとか、そういったことについて基本的には意見交換をさせていただきました。

それから、できれば継続開催をしたいというような思いは持っておりますので、開催に必要なさまざまな条件が整い次第、速やかに開催のための業務が行えるように準備をしていきたいという旨のお話をしております。仮契約等についてはしておりません。

- 朝日新聞 今のお話の中で、1回目の課題や印象や反省点みたいのをASO側はどのように言っているのかというのを教えてください。

- 市長 基本的には、選手の反応も含めて非常に好意的な印象を持っていただいています。アジアでといますか、ワールドフランスの本大会以外でヨーロッパ以外に出るということは初めてでありましたので、ASO側もどうい大会になるかというのはかなり腐心されていたのではないかと思いますけれども、非常にたくさんの方々が集まっていただき、また非常にたくさんのメディアに取り上げていただいて、発信もできたというふうにも感じていただいておりますし、また選手の人たち自身も、自分のツイッターだとかソーシャルメディア等で日本の印象やそういったものを発信してくださったようで、そういったことも非常に良かったというような反応をされておりました。

もちろん運営等々まだ課題もあるということで、早目にいろいろ準備ができるようにしていきたいというようなお話をさせていただいたところでもありますけれども、ただ現状の開催に向けては議会との関係等々もございしますので、開催ができるように準備といいますか、私たちとしても開催をしたいというようなお話をさせていただきましたけど、まだそういった条件が十分整っていない状況ではあるといったこともお話をさせていただいています。

- 朝日新聞 ほかの都市で開催する可能性があるというのを向こうから提案されたり

はしていないでしょうか。次の都市はさいたま市ではなく、ほかの都市で開催みたいなことを向こうがする可能性もあるというようなことは提案はなかったでしょうか。

○ 市 長 現時点では、そういうお話はございません。ASOとしては、単にクリテリウムという大会を開催するということだけに関心があるのではなくて、さいたま市は自転車のまちづくりを進めていく、自転車を通じて自転車の文化を発展させていくとか、あるいは自転車が乗りやすい環境をつくっていくとか、あるいは自転車のまちづくりを推進していくということについても大変ご理解を強く示していただいて、そういうまちづくりもぜひ協力をしたいというような、そんな思いを持ってくださっているというふうに感じましたし、そういうことの中で協力をしていきたいというようなお話をいただいたところでございます。

○ 埼玉新聞 先ほどの質問に関連してなんですが、ASO側との話し合いの中で、来年もし継続開催するのであれば、いつごろまでに仮契約なり本契約なりをするという時期の話があったのか、もしくは向こうからいつまでにはっきりしてくれみたいな話があったのか、あったとすればいつごろまでということだったのか、その辺をお聞かせください。

○ 市 長 まだ現時点ではいつごろまでにということは出ておりませんが、できれば早く準備をスタートしたいという思いがございますので、正式な契約ではなくても、仮契約と言っていいのか、ちょっとそれはわかりませんが、早くスタートができるような状況はつくりたい、あるいはつくってほしいというようなことのお話はありました。

○ 埼玉新聞 例えば、これは市長ご自身のお考えでもいいんですけども、去年は年度末に正式な発表があったと思いますけど、その時期までにはというのはあるのでしょうか。

○ 市 長 ちょうど去年のその時期というのは、1つは予算案が正式に承認をされたということがあってということになると思いますので、正式には当然来年度予算のご議決をいただくということが前提になってくるだろうと。正式発表については。

ただ、もちろん来年度開催に向けて議会の皆さんの合意というのが前提になりますけども、できるだけ早い時期にそういう正式な契約ではなくて

も準備が進められるような状況というのはつくりたいとは私たちも思っておりますし、多分ASO側もそういった思いは持っていらっしゃるのではないかとは思っています。

○ 埼玉新聞 そうしますと、ある程度そういった合意なり契約なり交わす前に市としてはできる準備はもうスタートするというお考えなんですか。

○ 市 長 もちろん来年度予算をつくるに当たっても、どのぐらい費用がかかるのかというのをもう一回精査をしたり、その金額を積み上げていったりとかというような、こういった作業を当然していかなくてはいけなかったりするんだろうと思っておりますけども、ただ実際にそれが本当に提出できるのかとかというようなことはまた別次元で、そういった準備ということについてはやっていかなくては間に合わなくなってしまうとは思っております。ただ、実際にそれが提出をし、ご議決をいただけるというところまで持っていかなくてはいけませんので、そのためには議会の皆さんの合意というものやご理解というのが必要になってくるんじゃないかと思っております。

○ 毎日新聞 ASOとの話の中で、次年度開催する場合には為替予約をしたいというようなお話というのは市側からはされたんですか。

○ 市 長 恐らく為替予約については、ASO側との話というよりは、要するに何建てて払うかという話の中での絡みになりますので、当然向こうはユーロ建てということになると思うので、ユーロ建てにした場合には、私たちとしては、今回も大変苦い経験がございますので、そういったことには十分配慮して対応しなくちゃいけないだろうとは思っております。

○ 毎日新聞 12月に会われたときには具体的にそういうお話はされていないと。

○ 市 長 そういう話なども、いろいろ今回こういうことで当初予定していたよりも金額が随分膨らんだということはお話をしております。

○ 毎日新聞 それに対してASOからは、そのような事情はわかったというようなことで改善をするというようなお話はあったんですか。

○ 市 長 この為替の問題も、直接ASOに払っている部分だけではありませんので、別の部分もありますので、そういう意味では私たちとしては、直接ASOとは話をしておりますけれども、為替予約の話だとか、為替によるリスクの軽減化ということについてはしっかりやった上で検討を進めて

いく、あるいはその上で対応していくということについては、これは来年の不可欠の要素だと思っています。

○ 埼玉新聞 クリテリウムの審議の中で、企業協賛金が集まらなかった理由として、スタートが遅かったと。企業の新年度予算の前に組み込んでもらわないと企業側も出せないという話がありましたけれども、このままいくと同じことを繰り返される可能性が出てきていると思いますが、どうなのでしょうかね。企業回りのスタートはいつぐらいからやろうと。

○ 市 長 いろいろからというと、ゴーはまだ出ていないので、何とも言えませんけれども、ただ1回目をやった後に今回スポンサーになってくださった方々へのお礼のご挨拶などは既に行っておりまして、その中で継続するのかどうかというお話が出たりしている際には継続的に協力して下さるのか、あるいはしてくれないのか、あるいはもう少し協力してもいいよというふうに言ってくれているのか、いろんな反応がございましたので、その辺については私たちとしてもある程度、正確にというものではないですけども、把握はしております。

あとまた、今回いろいろアプローチしたけど、時間的にだめだったというようなところもございますので、今回実際に1回目実施ができて、ある程度それなりにたくさんの、自転車レースとしては多分日本で一番集まったレースになったんだろうと思いますけども、そういった状況を見てくださったりしておりますので、今後またそういうアプローチができるのではないかと考えております。

○ 埼玉新聞 それでは、そのほかに質問がある方は質問してください。

その他：今年特に力を入れたい政策は？

○ 時事通信 時事通信です。一番最初に言った今年の抱負の部分で確認したいんですが、幾つか政策を挙げられましたけれども、その中でも特に力を入れたいこととその理由をお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市 長 まず、来年度に向けては幾つかございますけれども、1つ、まちづくりについて大宮駅東口の大門2丁目中地区の再開発事業などについても今年度中にできれば準備組合から組合に移行させたいとも思っておりますし、あと社会保険大宮病院、この手続も今年度中に終えて、来年度新組織

に社会保険病院の管理者が移りますので、その中で順調に推移をしていくように取り組んでいくということが必要だと考えている事業があったり、引き続き今年から継続してやってきたことが形になる時期なものですから、1つ2つというふうに言われるとなかなか言いにくいところなんですけども、今回今年度で言うと、保育所の整備が来年度4月に向けては680ぐらいで、必ずしも多くはないんですけども、でも保育コンシェルジュというのを初めて導入して、その成果が見えてくると考えておりますので、子育て支援をより一層充実させていくということが1つですね。

それから、もう一つは今言ったまちづくりですね。大宮駅東口の大門2丁目中地区を含めたまちづくりの進展を来年いよいよ本格化させるという年にしたいということですね。

- 時事通信 仕事始めの式では、一番最初に東日本の中枢都市化を挙げられていましたけれども。
- 市長 そういう意味では、東日本の中枢都市化の一部の都市機能の拡充というところが今言ったまちづくりのところにかかわってくると思っています。
- 時事通信 その理由もいただけますでしょうか。子育て支援というのを今1つ挙げられていますが。
- 市長 今子育て中の市民の皆さんにとっては最大の関心事の一つであろうというふうに思っておりますし、さいたま市としても、子育て世代の方々にたくさんさいたま市に住んでいただきたいという思いを持っておりますので、そういう意味では大変重要な事業の一つであると思っております。
- 時事通信 今のことで確認なんですけど、一方で子育て中の方が増えていくから、イタチごっこのようにと言ったらちょっと語弊があるかもしれませんが、保育所の数も足りなくなるという、そういうジレンマもあるかと思うんですが、これについてはどのように受けとめていらっしゃいますか。
- 市長 あんばいが非常に難しいところだと思います。ただ、まだおかげさまでさいたま市としての推計人口の伸びも毎年約1万人近く新しい人口もふえておりますし、まだまだそういう意味では若い世代、子育て世代がさいたま市に住んでいただけるという要素があると思っておりますので、そういう意味ではそういった分野を積極的にやるということは必要だと思っています。

その他：広域避難場所が1か所であることについて

- 毎日新聞 さいたま市で災害などがあった場合の広域避難場所が全国の20の政令市と東京23区の中で最も少なく、1カ所ということがわかったんですが、それについて市長のこの数が少ないという現状についての受けとめと、あと今後増やしていく必要は当然あると思うんですが、基準の見直しですとか、どういった方法で増やしていかれるのかということをちょっとお聞かせいただければと思います。
- 市長 まだ庁内で詳しく議論はしておりませんが、広域防災拠点広域避難場所（会見後訂正）が1つしかないということについては改善をしないといけないという思いを個人的には持っております。
- 特にさいたま市の場合も大都市の一つでありますから、広域的にいろいろ対応していくということが必要になってくると思っておりますので、そうした中で広域避難場所というものを拡充していくという必要性はあると思っております。その中で今、日本一の安心減災都市づくりの中でさいたま新都心を中心に周辺に広域防災拠点みたいなものを整備したいという考え方も、既にそういった方向も今検討しているところですので、そういったことなども踏まえて広域防災拠点広域避難場所（会見後訂正）についてはもう少し増やしていきたい。具体的な数とか、そういったことまでは、まだ中身を議論しておりませんので、申し上げられませんが、増やしていく必要はあるという認識をしております。
- 毎日新聞 基準の緩和についてもお聞かせいただきたいのですが。
- 市長 あわせて、増やしていくに当たっては当然その基準の緩和ということが必要になると思いますので、その辺についても現状の考え方でいいのかどうかも含めて、あとどのぐらい緩和すれば、どのぐらいのところが対象になるかとか、そういったものをもう一回よく精査をした上で考えていかなければいけないと思っておりますので、そういった状況を十分検討した上で変えていきたいと思っております。
- 毎日新聞 いつごろまでに検討を終えたいというふうに。
- 市長 早いうちがいいとは思っておりますけれども、どのぐらいのスパンでということとはなかなか明確には申し上げられませんが、来年度中ぐらいに

は基準の見直し等々については考えていかななくてはいけないのではないかと考えています。

- 毎日新聞 基準の見直しをすることで自動的に指定も可能になると思うんですが、来年度中までに緩和された基準で指定できるものについては指定していくということによろしいですか。
- 市長 そうです。

その他：安倍首相の靖国神社参拝について

- 埼玉新聞 埼玉新聞ですけど、1点です。安倍首相が暮れに靖国神社を参拝しまして、内外で波紋を呼んでいると思います。また、アメリカ側から失望するというようなコメントが出たり、いろいろ懸念材料もふえていると思うんですけども、市長のご見解をお聞かせください。
- 市長 安倍総理自身の政治家としての信念や心情というものもあるかと思えますし、その中で総理という任務といたしますか、役割も担っていらっしゃるんで、そういったものを総合的に勘案し、また判断をして行った行動であらうというふうに思います。それについて、私自身としてはそれ以上でも以下でもないです。
- 埼玉新聞 特に批判する側の意見としては、A級戦犯といたしますか、戦争責任者が合祀されているということの問題にする意見が多いんですけども、この点については市長はいかがでしょうか。
- 市長 さまざまな考え方、立場の方がいらっしゃいますので、現時点として私は市政を預かっている、身近な行政を預かっている身なので、それについて個人的な心情ということをお話するのは必ずしも適切ではないと思っていますので、その辺はちょっと控えさせていただければと思います。

その他：都知事選について

- 時事通信 都知事選のことで伺いたんですが、今各党が擁立作業を進めています、東京オリンピックの準備とか9都県市の共通の課題とかで新しい知事とはいろんな連携というものが必要になっているかと思うんですが、新しい都知事に望む資質というんでしょうか、どのような人物を望みますでしょうか。

- 市長 1つは、2020年に東京オリンピック、パラリンピックが開催されるという大きな、これは東京あるいは首都圏だけではなくて、日本全体の夢でもあり、希望でもあるというプロジェクトでございますので、それを着実に遂行し、実現ができる方が望ましいと思っておりますし、またあわせてこの首都圏は日本全体を経済的にもいろんな意味で引っ張っていく、牽引をしていく役割があると思っております。中でも東京都はまさにそのリーダーでもありますので、そういったリーダーシップを発揮していただける方になっていただくことを期待したいと思います。
- 埼玉新聞 よろしいですか。どうもありがとうございました。
以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進行 以上をもちまして市長年頭記者会見を終了させていただきます。
なお、次回開催につきましては、1月23日木曜日13時30分から予定しておりますので、よろしくお願いいたします。どうもお疲れさまでございました。

午後2時26分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。